

【電子版】



2025年 第1号 2025年2月4日

発行：自交総連本部

〒110-0003 東京都台東区根岸2-18-2-201

tel. 03-3875-8071

fax. 03-3874-4997

メール info@jikosoren.jp

ホームページ→



『ライドシェア』は『白タク』だ

RS全面解禁阻止統一行動 街頭宣伝で通行人へ訴え

自交総連は、今年度、「ライドシェア全面解禁阻止」を掲げ、各地連・地本において統一行動を行っています。新年最初の1月、東京と北海道、関西・京都で街頭宣伝が実施されました。

東京「今日の宣伝でRSが危ないと感じた」

2025. 01. 07 東京・二子玉川駅前



東京地連は1月7日、楽天本社がある二子玉川駅前に宣伝カーを配置し、ライドシェア阻止を訴える宣伝行動を実施。18組合60人と本部から高城書記長が参加しました。

楽天の三木谷会長(新経済連盟)は従前からライドシェア新法の制定を強力に推進してきており、石破首相に面会し新法の早期制定を要求しています。

宣伝行動では、徳永委員長が口火を切り「三木谷会長は利用者の安心・安全などの考慮はなく、利益のためだけに新法制定をしライドシェア解禁を画策している。同時に単発・長時間労働となるギグワーカーとして働く労働者の事も一切眼中に無い。国民に危険が及ぶライドシェア新法は必要無い、三

木谷会長は今すぐ新法制定の要求を撤回しろ」と力強く訴えました。

各単組からの参加者は、「危険なライドシェアはいらない」と書かれた横断幕を掲げ、危険な内容が書かれたビラ入りティッシュ500枚を駅前を通行する人たちへ配布しました。ビラを受け取った年配の女性は、「ライドシェアという言葉が最近耳にして何の事か解らなかったが、今日の宣伝を聞いて危ないものと感じた」と感想を述べてくれました。

北海道 世界一安全な日本のタクシーを守って

札幌地区労連と北海道公務共闘連絡会は、月初め（一の付く日）に札幌駅南口で争議支援を訴える行動（一の日行動）を行い、市民に闘いの実情を知らせています。自交総連北海道地連は、この間、ハイタクユニオンの争議支援と合わせてライドシェア全面禁止闘争への支援を訴えてきました。

1月10日の一の日行動では、以下の支援呼びかけをしました。

「自交総連は、今年の25春闘でライドシェア全面解禁阻止を闘いの中心に据えています。ライドシェアは、利用客を危険にさらし、タクシー労働者の雇用を破壊する危険な事業でしかありません。

2009年、ロサンゼルスでライドシェアの元祖企業のウーバー社が誕生しました。ウーバー社は、あっという間に危険なライドシェアを全世界に広げました。アメリカはもちろん、ヨーロッパでもインドでも中国でもウーバー社の運転手による強盗事件や性暴力事件、利用客とのトラブルが多発し、世界のタクシー事業を大混乱させ、多くのタクシー会社も廃業に追い込みました。ライドシェアによってもたらされたのは安全輸送の破壊、タクシー労働者の雇用破壊です。

日本にも2013年にウーバーが進出し、福岡県にライドシェアを持ち込もうとしましたが、白タク行為として阻止されました。当たり前のことです。

日本のタクシーは、女性や子供一人が深夜でも安心して利用できる。お年寄りや障がい者の方から信頼を得ている世界一安全なタクシーです。

これは、68年前の1956年に安全輸送を確保するため二種免許制度が導入して以来、受験資格を厳しく制限し、運転者に対する安全教育、健康管理、自動車の整備点検や消毒など、安全に必要な規制と管理を長年積み重ねてきた結果です。昨年4月、菅義偉氏や小泉進次郎氏など、でたらめを行っているライドシェア推進派議員の圧力によって日本版ライドシェアが導入されました。そして彼らは今、ライドシェアの全面解禁を狙っています。

これまで世界の都市が経験したようにライドシェアが全面解禁されたら、利用者の生命財産は脅かされ、運転者は独立請負業者としてギグワーカーとなり、雇用が破壊されます。

世界一安全な日本のタクシーを守ってください。

ライドシェアの全面解禁阻止の闘いに力をかけてください」

京都 「RS全面解禁阻止」で11度目の共同闘争

2025.01.16 京都・四条烏丸

「ライドシェア全面解禁阻止」の一点共闘で始めた京都の「共同闘争」は第11波となり、1月16日にJR京都駅烏丸口（塩小路通）と四条烏丸で宣伝行動が行われました。（昨年11月21日には第9波、12月18日には第10波を実施）



京都の個人タクシー6団体（みらい京都、市個人、協京、昌栄会、互助、楽友）で組織さ

れる京都個人タクシー団体協議会と、全自交京都地連、自交総連京都地連の仲間が集結。京都総評の柳生剛志事務局長と全国一般の仲間も駆けつけました。自交総連大阪地連の宣伝カーに、楽友の大澤貴司氏、全自交の成田次雄書記長、昌栄会の田中義弘理事長、自交京都の庭和田裕之書記長の4人が登壇し、ライドシェア解禁の危険性を訴えました。訪日外国人観光客や修学旅行らしい生徒らも足を止め「何か」と聞き入る場面も見られました。

自交京都の庭和田書記長は「『ライドシェア』は『白タク』。これを全国に広めていくために、今、新しい法律をつくろうとする動きが水面下で進んでいる。そうすれば、タクシーだけでなく、バス等も含め地域の公共交通全体が壊れてしまうことになる。凶悪な事件も増える中、より国民を危険にさらしていくものが『白タク』であり『ライドシェア』だと我々は思っているし、そのことを皆さん方にも知っていただきたい」と強調しました。

※ 大澤タクシー情報局（YouTube）で当日の様子が配信されています。

（URL：https://youtu.be/egDx_SPGuBs?si=uHm-Qp-nwBrTrhtW）

これまでの行動も視聴できます→

